

第 544 回 例 会

25年5月17日

本日のプログラム

- ・ソング 「それでこそロータリー」
- ・卓話 クラブフォーラム
会報・広報委員会 笹田 隆志 委員長
「ロータリーの公共イメージ」を読んで
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」

次回(5月24日)のプログラム

- ・職場見学会
時間 16時30分 近鉄奈良線「学園前」駅 南口 集合
場所 介護施設「エリシオン学園前」
- ・移動例会
18時～ 施設内レストラン「五行」にて

先週(5月10日)の例会報告

■会長の時間

【悩みを突き抜けて喜びに到れ】

西欧の故事。

ベートーベンの全生涯を表現したことばとしてよく知られている。

すばらしい数々の音楽遺産を残した楽聖ベートーベンは、まことに不幸な、恵まれぬ生涯をおくった。

ベートーベンは、生まれき醜かった。母親はやさしく、おとなしく、愛情を示してくれたが、ときとして感情的に非常に沈んでしまう鬱病傾向をもっていた。宮廷楽団のテノール歌手であった父親は、酒飲みで、アルコールが入ると残虐になり、ベートーベンに苛酷な音楽教育をほどこした。そのため、幼児期からベートーベンは泣いてばかりいた。性格的にも暗く、近所の少年たちから嫌われるほどだった。たいへん不器用で、動作がぎこちなく、よく物をこわした。

祖母はアルコール中毒であり、入院先の病院で死んでいる。きょうだいはベートーベンも入れて六人だが、そのうち三人は子どものころ死んでいる。残ったふたりの弟もまともではなく、特に末っ子の弟は、ひどく貪欲で周囲の人びとを困らせた。

ベートーベン一家をみると、本人も含めて社会にうまく適応できない人物の集まりであったことがわかる。

こんな家庭環境で育ったベートーベンは、幼児期から、精神的に不安定で、感情の変化が激しく、身体のことをひどく気に病む心身症傾向があり、しばしば自殺を考える人間になった。晩年にはもの忘れがひどく、誰も信じられないほど、とっぴな言動が多くなった。また、横柄で、尊大な態度もときにはみられ、あまり人から好感をいだかれる人物ではなかったのである。

家庭の不幸、自分自身の心身の欠陥からくる不幸、さらに音楽家としては致命的な不幸に見舞われる。耳の病気にかかり、まったくの聾者となってしまうのである。それでもベートーベンは、さまざまな不幸、絶望的ともいえる悩みを克服して、一曲また一曲と偉大な音楽を創り出していく。

が、世俗的な意味では恵まれず、自作の第九交響曲を自ら指揮して初めて演奏したのは、死のわずか三年前である。

ウィーンのケルトナートーア劇場での演奏会は大成功だった。演奏後、満場の聴衆は熱狂して、割れんばかりの大喝采、大拍手をおしみなくベートーベンにおくった。しかし、客席に背中を向けて指揮棒をとっていたベートーベンには、なにが起こっているのかわからなかった。側にいたアルト歌手が手をとって聴衆のほうに向かわせて、はじめて第九交響曲のかつてないほどの成功を知ったのである。

【来客紹介】 1名

【出席報告】

25年5月10日(第543回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
32名	2名	18名	12名	60%

【幹事報告】

〔メールBOXに配布〕

- 1)ロータリーの友(5月号)
- 2)月間地区出席報告(3月分)
- 3)活動報告書のお願い ……各委員長へ

〔回覧資料〕

- 1)秋のライラ報告書
- 2)大阪交通災害遺族会「パンジーだより」

ニコニコ箱(5月10日)

福島 三雄 = 深川パストガバナ一様、本日はよろしくお願ひします。

川上 大雄 = 天候に振り回されています。

森本 良嗣 =ようこそお越しくございました。 深川パストガバナー、卓話楽しみにしておりました。

高野 幸雄 =GWも明け、やっと暖かい日がやってくると思いきや、何だかおかしな天候です。 御自愛下さい。

深川パストガバナー様、本日の卓話よろしくお願ひ申し上げます。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 4000円	今年度合計 3086268円
---------	-------	-----------	----------------

卓話(5月10日)

「ロータリーの基本」 深川 純一 パストガバナー (第2680地区 伊丹RC)

ロータリーの創業の20世紀初頭、アメリカのシカゴにて創始者ポール・ハリスが、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展させたい想いの構想を3人の仲間に相談し、4人は原則を確認しあつた。 同業者は排除し、また誠実な人間しか入会させず、2週間に1度の親類付き合いをしてみんなで助け合う。 会員から購入し原価に近い売買を心掛ける。 誰と誰が取引きをしたか統計をとり、またお互いに職業の宣伝を行う等々・・・その当時は親睦中心であつたものの、異業種交流、異なった発想の交換、企業経営、助け合いの心を生んでいた。

その後、企業は株主、経営者、従業員そして顧客と色んな構成員の因縁で成り立っている事実から、やがて公共性が職業奉仕が注目される様になり、社会奉仕等 幅広い奉仕活動を通じ多大な社会貢献をすることとなった。

ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に存在し、奉仕は寛容の心を導き、Service Above Self「自分を越えた奉仕」現在の思想の主流となっている。

あらゆる機会を通じ、人と人とのふれ合いを広めることは、奉仕活動の基本であり、依怙(えご)は許されない。 自分の欲を満たすより人と人のつながりを大切にしながら、相手の身になって思いやりの心をもって奉仕する。 ロータリー活動の「理念と実践」を実効させる大切な基本理念であり、この奉仕推進により平和な社会の達成を期待したい。

(講義概要：斧原邦夫 記)



大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mai: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日

事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459

会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日 12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか